秋季県民体育大会

名護 ハンド 男女初V

総合優勝は那覇

14市郡が19の採点競技で競う第71回県民体育大会秋季大会は24日、県内各地で採点対象となる競技を終え、男女総合成績で那覇市が148点で2位以下を大きく引き離し優勝した。準優勝には中頭郡、3位に浦添市が続いた。那覇市は女子総合でも39点で頂点に立ち2冠を達成した。那覇市はバレーボール女子で優勝。重量挙げ団体で38年ぶりの頂点に立つなど多くで底力を発揮した。準優勝の中頭郡はソフトボール女子で準優勝、バレーボール男子で2年連続10度目の頂点に立った。（一部記録は後日掲載）

【男女総合】
①	那覇市	148.00
②	中頭郡	129.50
③	浦添市	123.50
④	島尻郡	116.00
⑤	沖縄市	115.00
⑥	国頭郡	107.00
⑦	宜野湾市	104.00
⑧	名護市	91.50
⑨	豊見城市	91.00
⑩	糸満市	79.00
⑪	宮古島市	78.00
⑫	島尻郡	64.00
⑬	八重山郡	60.00
⑭	宮古郡	45.50

【女子総合】
①	那覇市	39.00
②	浦添市	39.00
③	宜野湾市	34.50
④	島尻郡	34.00
⑤	中頭郡	30.00
⑥	沖縄市	27.50
⑦	糸満市	27.50
⑧	名護市	24.50
⑨	国頭郡	22.50
⑩	沖縄市	21.50
⑪	八重山郡	17.50
⑫	豊見城市	13.50
⑬	南城市	12.50
⑭	宮古郡	8.50

※同点の場合は上位入賞数による

若い力で一気に頂点

男子 名護

ハイライト

最大のヤマ場は準決勝の浦添市戦。過去4度敗れてきた名護市にとって大きな壁だった。警告や退場が相次ぐ過熱した展開。1点リードの最終盤、7人攻撃に切り替えた浦添市にフリーで左サイドシュートの好機をつくられる。名護市は万事休すの状況だが「駆け引きで正面に誘い込んだ」とGK宮里泰生がビッグセーブ。選手らはコートになだれ込んだ。

決勝の相手は前回王者の宜野湾市。若い名桜大生の多い名護市だが、複数の選手の足がつった状態で「前半は温存して後半勝負だった」（中村陽一主将）。前半を11―11でしのぎ、俊足とパワーで猛攻を仕掛けた。

田川雄一は「守備に左右されない強さがある」と、ブロックの上からパワフルなロングシュートをたたき込む。クロスプレーから司令塔の金城武浩がミドル。守備裏でポストの佐藤雄太がスペースをつくった。名桜大生が派手に得点する中、社会人の通事享介も要所を押さえ最多7得点。高身長をそろえ、どっしり構えたハンドを展開する宜野湾市を全力でかき乱した。

名護は初優勝。名桜大としては県内4大会制覇。来春卒業の金城、田川、宮里は「インカレも大事だったけど、実力者の先輩が多い県民大会で勝てたことは大きい」と喜ぶ。ナゴクラブの中村は日頃鍛えあってきた学生と手にした勝利を「感無量」と語り、肩を組んだ円陣の中で大喜びした。（嘉陽拓也）

男子決勝　名護―宜野湾　守備裏のスペースからシュートを決める名護の佐藤雄太＝24日、沖縄市の県総合運動公園体育館

ハンドボール（県総合運動公園体育館）

【男子】
▽準決勝
宜野湾市 27―22 那覇市
名護市 16―15 浦添市
▽決勝
名護市 22（10―7 12―7）14 浦添市

【女子】
▽準決勝
名護市 45―17 八重山郡
浦添市 30―15 那覇市
▽決勝
名護市 27（16―13 11―11）24 宜野湾市

地力見せつけ圧勝

女子 名護

○…ザ・テラスホテルズと名桜大で構成される女子の名護。決勝開始直後は攻撃や速攻がつながらずスロースタートとなったが、徐々に地力の差を見せつけ、浦添に22―14で勝ち初優勝した。

坂本朱里がマンツーマン守備で動きを封じられた後の対策は準備していなかった。だが、内藤結貴が「浦添の弱点を考え続けた」と、司令塔とシューターを担い、チーム最多10得点と大活躍した。守備も左右の2、3枚目が間を割らせず、浦添の攻め手を封じた。フィジカルの強化も勝因となった。

田口舞主将としては「前半のもたつきを無くせば、もっと差を広げられた」と満足していない。田口らのザ・テラスホテルズは日本リーグ参入を目指しており、12月末に始まる日本選手権に向けて課題を修正し「リーグ勢に勝つ」と意気込んだ。

女子決勝　名護―浦添　素早い速攻から得点を決める名護の内藤結貴

男子の部で初優勝した名護

女子の部で初優勝した名護